

2020年度 富山湾におけるリュウグウノツカイの記録

木村知晴・草間 啓・稲村 修 (魚津水族館)

Record of Slender oarfish *Regalecus russelii* in Toyama Bay, Sea of Japan

(Fiscal year ending March 2021).

Tomoharu KIMURA Satoshi KUSAMA Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

はじめに

リュウグウノツカイ *Regalecus russelii* はアカマンボウ目リュウグウノツカイ科リュウグウノツカイ属の海水魚である。体は著しく細長く、体長は体高の17~24倍であり、背鰭前部の6棘は太く著しく延長し、さらに腹鰭は1条で延長し途中で膜質の付属物が3か所以上あることなどで特徴付けられる(林, 2013)。主な生息域は沖合中深層で、東太平洋、西太平洋、大西洋、南アフリカ、東インド洋から知られており、日本近海では北海道から九州、沖縄諸島の沿岸に分布する(崎山・瀬能, 2012; 林, 2013; 瀬能, 2018)。

富山湾(富山県沿岸)において確認されたリュウグウノツカイについて、伊串・稲村(2010)は2009年12月から2010年2月の期間で4個体を報告し、そのなかで津田(1990)を引用し、富山湾・能登周辺では過去に6個体の捕獲記録があるものの、捕獲年月日や場所などの詳細は記載されておらず過去の記録は明確ではないとしている。その続報として木村ら(2020)は、2011年4月から2019年3月の期間に22個体を報告している。さらに木村ら(2021)は、2019年4月から2020年3月の期間に8個体を報告している。これらは魚津水族館(以下、当館と記す)で確認した記録であり、富山

県沿岸において捕獲されたリュウグウノツカイの明確な記録は34個体としていた。

2021年3月に北日本新聞社の松下奈々氏より、1962年1月23日に新湊沖(現・射水市沖)の定置網で捕獲された1個体の記事(富山新聞, 1962)と、1982年2月18日に高岡市の国分浜に打ち上げられた1個体の記事(北日本新聞, 1982)の提供を受けた。その後、1962年1月23日の記録は津田(1964; 1976)の報告からも確認された。

以上より、富山県沿岸海域におけるリュウグウノツカイの記録は、1962年と1982年に各1個体が単発的に確認されており、2009年からは連続的に34個体が確認され、2020年3月までに計36個体が記録されている。今回は、2020年度に富山県沿岸で新たに確認されたリュウグウノツカイの記録を中心に報告する。

リュウグウノツカイは話題性が高く日本沿岸各地で確認されており、数多くの報告がある。また近年では、デジタルカメラやカメラ機能付き携帯電話およびインターネットやソーシャルネットワークワーキングサービスなどの普及により、一般人による目撃情報が得られやすくなっている。しかし、富山県以外で本種の記録がまとめられている海域は少ないことから、日本沿岸における

本種の捕獲・目撃情報に関してインターネットなどを利用して調べたので併せて報告する。

富山湾での捕獲記録

富山湾（富山県沿岸）において、2020年4月1日から2021年3月31日の期間に捕獲されたリュウグウノツカイは計3個体であった。それらのうちの2個体は当館に搬入して計測したが、射水市沖で捕獲された1個体は漁業者から画像と情報の提供を受けた。以下に各個体の記録を記す。



捕獲年月日：2020年11月17日
捕獲場所：高岡市伏木沖約1.5 km
水深約50m

捕獲者：昭栄漁業

捕獲方法：定置網

全長：2318 mm

状態：網揚げ時には生きていたそうだが、当館職員が到着時に死亡を確認。尾部はほぼ残っているが、尾鰭は欠損している。



(撮影：滝沢 司)

捕獲年月日：2020年11月24日
捕獲場所：射水市堀岡沖1.5 km
水深約60m

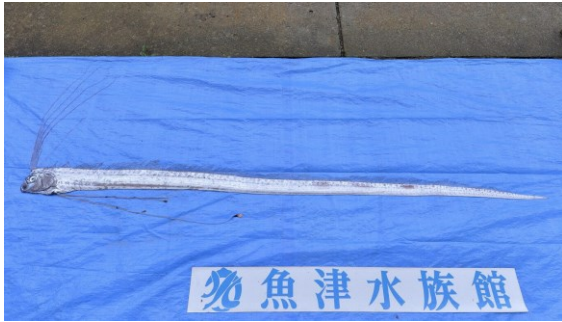
捕獲者：新徳漁業

捕獲方法：定置網

全長：約210 cm

状態：定置網内では生きており、網内で体が3分割に切れる。

備考：船上に引き上げられた後、その場所で放流された。情報提供のみ。



捕獲年月日：2021年3月5日

捕獲場所：魚津市北鬼江沖約100mの海面

捕獲者：友栄丸

捕獲方法：かぎ針

全長：3485 mm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

備考：海面近くを泳いでいた個体をかぎ針でひっかけて捕獲。

文献・インターネット上での記録

インターネットを利用して日本各地の水産館のホームページや新聞記事、ダイビングショップのブログなどのうちで、1900年以降のリュウグウノツカイの捕獲や目撃された情報を集めたところ、未整理の状態の確認情報が写真とともに多く確認された。これらの情報や富山湾での記録を総合すると、2000年以降に日本海の富山湾以南でリュウグウノツカイの成魚の確認が増えていた(図1)。一方、太平洋岸の駿河湾ではスキューバダイビングによりリュウグウノツカイの幼魚や若魚の確認が2016年頃から増えてきていた。稲村(2015)は富山湾におけるリュウグウノツカイやダイオウイカの増加について、南方海域での個体数や分布などの変化を要因と推測しており、近年、太平洋側の静岡県でリュウグウノツカイの幼魚や若魚が大量に発見されている状況か

らみて、日本列島の太平洋側での繁殖増加が日本海での大量出現につながっている可能性が示唆された。

まとめ

富山湾(富山県沿岸)で確認されたリュウグウノツカイは、今年度確認された3個体を合わせると計39個体となった。

本海域における本種の確認個体数を年度別でみると(図2)、2008年度以前は単発的に2個体しか確認されていなかったが、2009年度以降は年度平均で約3個体を確認されており、今年度の確認個体数は過去10年間の平均とほぼ同じであった。また、確認個体数を月ごとにみると(図3)、従前は1月をピークに11月から翌年2月に多く確認されていたが、今年度確認されたのは11月と3月であり、3月に確認されたのは初めての記録である。

日本海でのリュウグウノツカイは、山口県の日本海沿岸では2004年ごろから(河野ら、2015)、石川県の沿岸海域においては2010年ごろから確認個体数が増加しており(のと海洋ふれあいセンター、2020)、富山県沿岸と同様の傾向といえる。

リュウグウノツカイの生態はまだまだ不明な点が多く、今後も富山湾を中心に広く情報を蓄積・解析して生態の解明に努めたい。

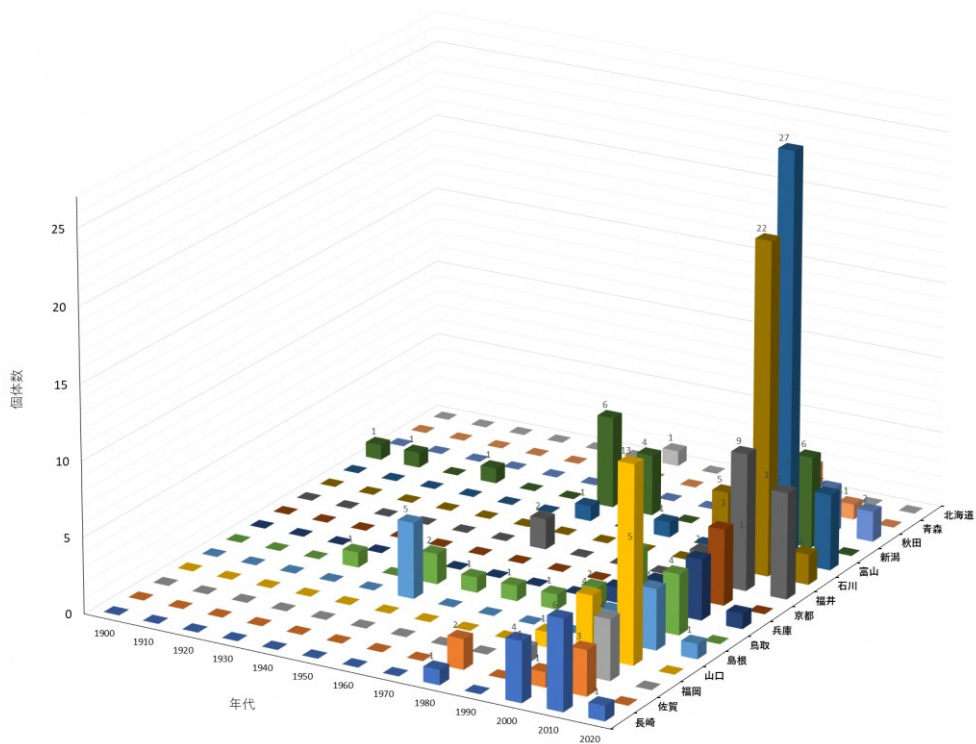
謝辞

捕獲したリュウグウノツカイを提供して頂いた有限会社昭栄漁業の皆様、新湊漁業協同組合の皆様、友栄丸の笠間武志氏、リュウグウノツカイの捕獲情報を提供していただいた有限会社新徳漁業の滝沢司氏、文

献情報を提供していただいた北日本新聞社の松下奈々氏に深く御礼申し上げます。また、リュウグウノツカイの運搬や計測を手伝っていただいた当館職員の皆様に深謝いたします。

引用文献

- 林 公義. 2013. リュウグウノツカイ科解説, 中坊徹次 編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 480. 東海大学出版会, 神奈川.
- 伊串祐紀・稲村 修. 2010. 富山湾で確認されたリュウグウノツカイ. 魚津水族博物館年報 20 号, 59-60.
- 稲村 修. 2015. 日本海・富山湾の異変?. BIOSTORY vol. 23, 66-69.
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫・園山貴之・荻本啓介・國森拓也. 2015. 2010~2013年の山口県日本海域における海洋生物に関する特記的現象. 山口県水産研究センター研究報告 (12), 1-21.
- 木村知晴・草間 啓・不破光大・稲村 修. 2020. 富山湾におけるリュウグウノツカイの記録 (~2019年3月). 魚津水族博物館年報 29 号, 38-48.
- 木村知晴・草間 啓・不破光大・稲村 修. 2021. 2019年度 富山湾におけるリュウグウノツカイの記録. 魚津水族博物館年報 30 号, 34-38.
- 北日本新聞. 1982. 珍魚リュウグウノツカイ標本にし保存へ. 2月20日朝刊, 17.
- のと海洋ふれあいセンター. 2020. のと海洋ふれあいセンターだより 能登の海中林 53 号, 8.
- 崎山直夫・瀬能 宏. 2012. 相模湾におけるリュウグウノツカイ (アカマンボウ目リュウグウノツカイ科) の記録について. 神奈川県自然誌資料 (33): 95-101.
- 瀬能 宏. 2018. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 524pp. 小学館, 東京.
- 富山新聞. 1962. 珍魚‘竜宮の使い’中部中に寄贈 氷見の大敷き網にかかる. 1月25日朝刊, 7.
- 津田武美. 1964. 富山湾産魚類分布目録. はばたき第2号, 41-48.
- 津田武美. 1976. 富山湾の人魚たち, 植木忠夫 編. 富山の動物 この愛すべき仲間たち. 128-133. 富山文庫, 富山.
- 津田武美. 1990. リュウグウノツカイ解説, 原色日本海魚類図鑑. 117. 桂書房, 富山.



	1900	1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020
長崎	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	6	1
佐賀	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3	0
福岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0
山口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	13	0
鳥取	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	2	4	1
島根	0	0	0	1	0	2	1	1	1	2	5	4	0
兵庫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4	1
京都	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
福井	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	9	7
石川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	22	2
富山	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	27	5
新潟	1	1	0	1	0	0	6	4	0	1	0	6	0
秋田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2
青森	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0
北海道	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0

図1 日本海沿岸の道府県（山形県の記録は見つからなかった）におけるリュウグウノツカイの年代別確認個体数。2020年代は2020年1月～2021年3月までの記録。

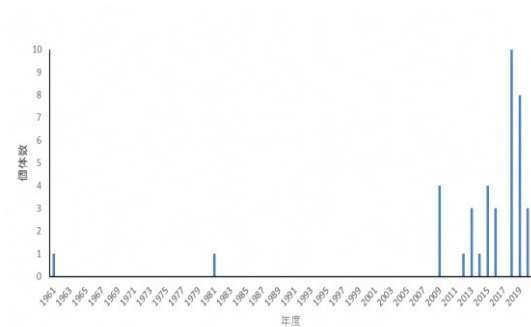


図2 富山湾（富山県沿岸）におけるリュウグウノツカイの年度別捕獲個体数。

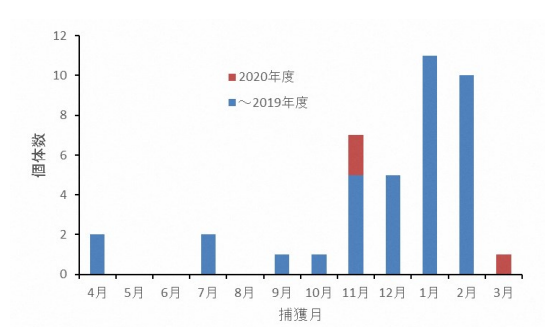


図3 富山湾（富山県沿岸）におけるリュウグウノツカイの月別捕獲個体数。